

資 料

栄養士を対象とした公開セミナーの試み

難波三郎 守田哲朗

川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床栄養学科

(平成5年3月31日受理)

An Attempt at an Open Seminar for Dieticians

Saburo NAMBA and Tetsuro MORITA

*Department of Clinical Nutrition
Faculty of Medical Professions
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-01, Japan
(Accepted Mar. 31, 1993)*

Key words : open seminar, dietician, education after graduation, lifelong education

はじめに

平成3年(1991年)4月,川崎医療福祉大学が開学したこと等を記念して10月・11月の土曜日を6回利用して川崎学園として12の講座を設けて公開講座が開催された。翌年つまり平成4年(1992年)度において本学が単独で一般を対象とした公開講座が開かれたほか,各学科の特殊性を生かした公開講座を開くことになり「公開セミナー」として実施した²⁾。

一方,社団法人日本栄養士会(藤沢良知会長・以下「日栄」という。)では管理栄養士・栄養士の生涯教育計画を立て平成元年(1989年)度から各県栄養士会を主体として実施することになっていた¹⁾。社団法人岡山県栄養士会(前田民子会長・以下「県栄」という。)においては未だ機が熟さないとして生涯教育委員会を発足させたものの当面,実施計画はなかったようである。

しかし,両者のこの事業の目的とするところは管理栄養士・栄養士の資質向上と生涯学習の

支援²⁾ということから両者が接触したところ一挙に具体的に盛り上ってきた。すなわち,本学と県栄がそれぞれに会議を持ち,さらに両者の連絡調整を重ねながら実施に漕ぎつけた。

目 的

科学技術の目覚ましい進歩と経済の発展は国民生活を豊かにし,同時に国民の健康志向は高まり,医療・保健・福祉にも高度なサービスが求められるようになった。栄養状態の改善支援の専門家である管理栄養士・栄養士にもこのような社会のニーズに対応できる資質と技術の向上が求められている。

本学臨床栄養学科は,その要請によって開設されたものであり,日栄はそのために会員栄養士の自己教育・研修・学習が容易にしかも幅広く,かつ効率的に行わせることを目的に会員栄養士の生涯教育制度をスタートさせていた。県栄ではこれを具体化するため「開催要領³⁾」を策定し平成4年度から3年計画で本学と共同主催

表1 基礎研修コースカリキュラム

<p>1) カリキュラム作成上の基本的な考え方</p> <p>①カリキュラム内容が偏らないようにするため大項目を設定する.</p> <p>②あまり細分化すると融通がきかなくなるので、大項目は、4〜5分野とする.</p> <p>③各主催者が大項目に示した枠の範囲でその科目の内容が決定できるように配慮する.</p> <p>2) 大項目（演習を含む）</p> <p>①人体に関するもの</p> <p>②食品に関するもの</p> <p>③公衆栄養に関するもの</p> <p>④マネジメントに関するもの</p> <p>⑤関連領域に関するもの</p> <p>⑥その他トピックス等に関するもの</p> <p>3) 大項目において取り上げる内容</p> <p>①人体に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人体の構造と機能 ●栄養素ならびに生体成分の代謝 ●環境適応（生体リズムなど） ●臨床検査データの読み方とその意識 ●運動生理 ●精神保健 ●栄養素の薬理効果 ●難病と栄養 <p>②食品に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食品成分に関して（食品成分を含む） ●調理科学 ●食料の需給（食料問題を含む） ●食品に関する先端技術（ハイテクの食品への応用） ●食品添加物 ●食品の流通（コールドチェーンなどを含む） ●加工食品に関して（製造法、利用法などを含む） 	<p>③公衆栄養に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●栄養所要量に関して ●栄養改善について（過去、現在、未来にわたって） ●食事計画—食品の使用 ●栄養指導 ●栄養生態学 ●食文化・食習慣 ●栄養状態の評価 <p>④マネジメントに関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食料構成 ●制度・法令に関するもの ●経営管理 ●衛生管理—食品衛生・環境衛生 ●作業管理 ●帳票管理 ●健康管理 ●大量調理技術の知識 ●厨房設備・機械に関すること ●フードサービス <p>⑤関連領域に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●原書購読（文献検索を含む） ●レポートの書き方、まとめ方（抄録の書き方、学会発表の仕方などを含む） ●調査のやり方、まとめ方 ●献立作成 ●外食産業 ●医療関係者の業務と栄養士の社会的役割 ●医薬品に関する知識 ●高齢者の問題 ●人間関係学
---	--

表2 基礎研修コースの履修単位

区	分	栄 養 士 資 格	管 理 栄 養 士 資 格
教	育 期 間	3 年	3 年
①	取得すべき総単位数	40単位	25単位
	内 受講により取得すべき最小単位数	28単位	17単位
	内 必須科目の講義 必須科目の演習 (必須科目の取得単位数)	13単位 6単位 (19単位)	8単位 4単位 (12単位)
②	内 「学会参加」による認定 単位数（1学会1単位）	最大6単位 2単位以内/年 (2単位×3年=6)	最大4単位 2単位以内/年
③	内 「県栄研修、職域研修参加」による認定 単位数 (1研修会参加1単位)	最大6単位 2単位以内/年 (2単位×3年=6)	最大4単位 2単位以内/年

という形で対応された。つまり、その目的は両者とも一致していた。

実施状況

日栄の「受講者の手引¹⁾」によると基礎研修コースのカリキュラムは、①人体に関するもの、②食品に関するもの、③公衆栄養に関するもの、④マネジメントに関するもの、⑤関連領域に関するものの5分野に区分して、それぞれ7～10項目を示している(表1)。さらに、履修単位と

と年数については表2のように示されている。

以上の考え方を前提として県栄と具体的協議を行い表3の実施要領を作成した。そして県栄の会員栄養士を対象にして要領の日程により実施し終了した。そして本学では、受講者187人の内9単位以上を履修した者149人に対して学長名の修了証を交付した。

評価と次年次の検討

講座の最終日に受講者からアンケートを求め

表3 平成4年度川崎医療福祉大学公開セミナー 実施要項
平成4年度岡山県栄養士会生涯教育基礎講座

- 主催：川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床栄養学科 (☎0864-62-1111 in4905)
社団法人 岡山県栄養士会 (☎0862-53-1078)
- 会場：川崎医療福祉大学 本館 4階西ウイング4101号教室 (2階玄関からエスカレータで4階へ)
- 期日・科目・講師等

回	期日(曜)	順	時 間	単位	科 目	講 師
1	8月22日(土)	(10:00受付 10:20開会行事)				
		1	10:30—12:00	必 ¹ 須	生涯教育制度概論	岡山県立短期大学 教授 沖 田 美佐子
		2	13:00—14:30	必 ¹ 須	人体の構造と機能(1)消化器系	川崎医科大学 講師 大 海 庸 世
		3	14:45—16:15	必 ¹ 須	栄養士の社会的役割	川崎医科大学附属川崎病院 栄養部長 道 下 美智子
2	8月29日(土)	4	10:30—12:00	必 ¹ 須	食品成分表の取扱いについて	ノートルダム清心女子大学 教授 高 橋 正 侑
		5	13:00—14:30	必 ¹ 須	代謝(1)脂質	川崎医療福祉大学 教授 日 下 喬 史
		6	14:45—16:15	選 ¹ 択	健康づくりと運動	川崎医療福祉大学 講師 松 枝 秀 二
3	9月5日(土)	7	10:30—12:00	必 ¹ 須	おいしさの調理科学	岡山県立短期大学 教授 淵 上 倫 子
		8	13:00—16:15	必 ² 須 演 習	臨床検査の概要とデータの読み方	川崎医科大学 助教授 市 原 清 志 博 講師 石 田
4	9月19日(土)	9	10:30—12:00	選 ¹ 択	食品添加物の現状	川崎医療福祉大学 助教授 藤 井 俊 子
		10	13:00—16:15	必 ² 須 演 習	栄養指導媒体の作り方とその活用法	川崎医療福祉大学 助教授 寺 本 房 子
5	10月3日(土)	11	10:30—12:00	選 ¹ 択	今日にみられる栄養状態の問題点	川崎医療福祉大学 教授 守 田 哲 朗
		12	13:00—16:15	必 ² 須 演 習	栄養士業務とパソコン(1)	川崎医療福祉大学 講師 小 野 章 史
6	10月24日(土)	13	10:30—12:00	必 ¹ 須	制度法令について(栄養関連法規)	川崎医科大学附属病院 栄養部長 難 波 三 郎
		14	13:00—14:30	必 ¹ 須	栄養所要量	美作女子大学短期大学部 教授 有 元 祥 三
		15	14:45—16:15 (16:20修了式 16:30終了)	必 ¹ 須	食品に関する最近の話題	川崎医療福祉大学 教授 今 村 経 明

- 申込み方法：社団法人 岡山県栄養士会 (☎0862-58-1078) で受付けますので御照会ください。

て集計したところ表4のとおりであった。

(1)開催時期についての具体的意見には、夏休みに多く、5～7月に、真夏または真冬に、栄養士の会の行事と重ならないように、開始を早めて



写真1 健康づくりと運動

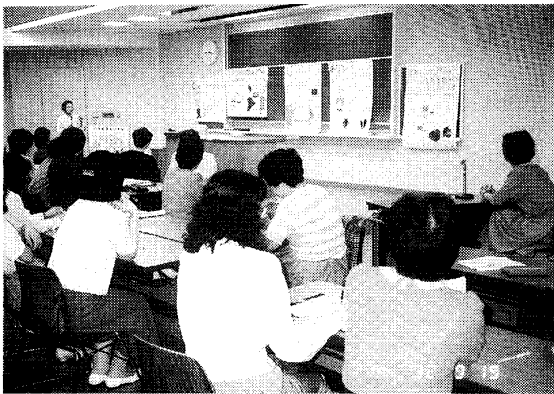


写真2 栄養指導の作り方とその活用法

分散させる、秋は出かけることが多い、7・8月がよい、前後に広げて4ヵ月位の間に、月1回程度で半年かけて、6～9月の日暮れの遅いとき、もっと早く始める。9～11月の土曜日は行事が多いなどがあった。

(2)曜日・時間についての具体的意見には、土曜日は月1回がよい、日曜日がよい、日曜日も入れる、月2回に、平日がよい、第4土曜をはずす、土曜日をさける、間隔をあける、第2・第4土曜がよい、1時半からに、朝から、1科目の時間が短いなどがあった。

(3)会場についての具体的意見には、岡山市内が便利、岡山・倉敷地区内をいろいろ変えてみる、講師が片寄る、県立大ができれば近いので、津

表4 1年次公開セミナーアンケートの結果

N=122 単位：人

アンケート項目	今のままでよい	変えた方がよい
1 開催時期	102	16
2 開催日 曜日 時間	104	13
3 会 場	108	9
4 研修内容：大変よかった48 まあよかった63		
その他：室温を適温に、弁当を売ってほしい、売店があればよい、駐車場が広くてよかった、受講者同志の交流が持てたらよい、食堂のメニューが少ないのに驚いた、食堂は安くて美味しかった、講義には必ず詳しい資料を準備してほしい、会場や事務運営に対する謝辞 (13)		

表5 生涯教育基礎研修コース（2・3年次）カリキュラム（案）

区 分	2 年 次	3 年 次
1 必須講義	① 生涯教育制度概論 ② 人体の構造と機能(2) 循環器系, 泌尿器系 ③ 代謝(2) エネルギー ④ 食料の需要 ⑤ アミノ酸・ペプチドの栄養生理効果 ⑥ 高齢者処遇 ⑦ 食品の機能 ⑧ 食中毒の動向と対策	① 生涯教育制度概論 ② 食料生産とバイオテクノロジー ③ 新しい調理機器と厨房設備 ④ 環境への適応 ―ストレスと免疫― ⑤ 健康行政が目指すもの ⑥ ビタミン ―最近の話題― ⑦ 慢性疾患患者の食生活指導 ⑧ 食品の流通
2 必須演習	① 栄養士業務とパソコン(2) ② アンケート調査のやり方, まとめ方	① レポートの書き方, まとめ方 ② 英語論文講読
3 必須講義	① 栄養状態の評価 ② 精神保健 ③ 食行動・食習慣とその変容 ④ 外食産業と栄養問題	① 運動所要量と運動指導 ② 作業管理 ③ 投薬と食事 ④ 骨とミネラル代謝
4 必須演習	① 文献検索法	① 身体計測・体力測定とその実際

表6 2年次カリキュラム案に対する意見

2年次カリキュラム案	開講した方がよい	どちらでもよい	計	その他希望科目
1 必須講義				
① 生涯教育制度概論	58	38	96	コンピュータ5
② 人体の構造と機能(2) 循環器系, 泌尿器系	106	5	111	有元先生の講義2
③ 代謝(2) エネルギー	109	3	112	臨床栄養と献立2
④ 食料の需給	71	28	99	予防医学的栄養学
⑤ アミノ酸・ペプチドの 栄養生理効果	87	26	113	公衆栄養・栄養指導の実際
⑥ 高齢者処遇	96	11	107	薬害, 薬と漢方薬など
⑦ 食品の機能	107	3	110	心理学
⑧ 食中毒の動向と対策	79	27	106	臨床心理学
2 必須演習				食品汚染について
① 栄養士業務とパソコン(2)	111	3	114	諸外国の栄養士の現状
② アンケート調査のやり方 まとめ方	84	24	108	冷凍食品等について
3 必須講義				各分野の最近の話題
① 栄養状態の評価	100	8	108	指導記録 SOAP の記入方
② 精神保健	79	27	106	効率のよい栄養指導
③ 食行動習慣とその変容	86	22	106	個人指導の取り組み方
④ 外食産業と栄養問題	86	20	106	病理
4 必須演習				栄養指導の実際をみたい
① 文献検索法	57	39	96	

表7 平成5年度 臨床栄養学科公開セミナー案

回	期日(曜)	順	(分類)	時間	単位	科目
1	7月24日(土)	1	(関連)	10:30-12:00	必 ¹ 須	生涯教育制度概論
		2	(人体)	13:00-14:30	必 ¹ 須	人体構造の機能(2) 循環器系
		3	(食品)	14:45-16:15	必 ¹ 須	食料の需給 食品の流通
2	8月7日(土)	4	(公衆)	10:30-12:00	必 ¹ 須	高齢者処遇
		5	(公衆)	13:00-16:00	1 必須演習	栄養指導(ロールプレイ)
3	8月21日(土)	6	(公衆)	10:30-12:00	選 ¹ 択	食文化・食習慣
		7	(公衆)	13:00-16:00	1 必須演習	調査のやり方・まとめ方
4	9月4日(土)	8	(人体)	10:30-12:00	必 ¹ 須	アミノ酸・ペプチドの栄養・生理効果
		9	(マネージ)	13:00-16:00	1 選択演習	栄養士業務とパソコン(2)
5	9月18日(土)	10	(公衆)	10:30-12:00	必 ¹ 須	栄養改善活動の実際
		11	(人体)	13:00-14:30	選 ¹ 択	精神保健(ストレス)
		12	(食品)	14:45-16:15	選 ¹ 択	食品の規格表示
6	10月30日(土)	13	(マネージ)	10:30-12:00	選 ¹ 択	食中毒の動向と対策
		14	(マネージ)	13:00-14:30	必 ¹ 須	経営管理
		15	(人体)	14:45-16:15	必 ¹ 須	代謝(2) エネルギー

山でも時々などがあった。

さらに、表5の生涯教育基礎研修コース(2・3年次)カリキュラム案を示して意見を求めたところ表6の結果が得られた。

以上の反省を踏えて学内公開講座委員会・臨床栄養学科会議ならびに県栄と連絡協調を図りながら平成5年度臨床栄養学科公開セミナーを立案している。現在までに表7に示すように期日と科目がほぼ固ったので、講師等についても接渉を可及的速に行い実施要項を完成させたいと考えている。

今後の課題

- (1) 3年計画でスタートしたこの公開セミナーを目的のために成功させる努力を続けることが重要である。
- (2) 3年計画終了後に引き続き専門研修コース実施に関わるかどうかを県栄と協議することが必要である。
- (3) 臨床栄養学科卒業生を送り出すようになったとき、卒業生に対する卒後学習支援の方法について検討を始めることが必要である。

文 献

- 1) 日本栄養士会(1987)生涯教育研修会(基礎コース)受講者の手引。
- 2) 守田哲朗(1993)病院栄養士と生涯教育, 栄養日本36(1), 48。
- 3) 岡山県栄養士会(1992)生涯教育(基礎研修コース)研修会開催要領。